

この「意識調査」はNSPAが加盟しているAPSWC
が行った調査で、APSWCの許可を取ってNSPAが
翻訳し、公開しています。

Perception Survey

意識調査

APSWC 2017

Conducted online 9-June to 6-July 2017

2017/06/09-07/06 オンラインにて実施

Asia Pacific Spa and Wellness Coalition

Tel + (65) 9668 6110

My SingPost Box 880318

www.apswc.org

Singapore 919191

info@apswc.org

当資料及びその内容について、全体またはその一部の販売や転用を禁じます。
著作権が著者にある場合はその限りではない。

© 2017 Asia Pacific Spa & Wellness Coalition (APSWC) All rights reserved

内容

概要	1
APSWC	2
Q1: 魅力を感じるか?	3
Q2: 内向的か?	4
Q3: 知識	5
Q4: 評価	6
Q5: 資格	7
Q6: 消費者知覚	8
Q7: 海外出張	9
Q8: 国際雇用	10
Q9: 世界水準	11
Q10: 伝統と文化	12
Q11: 語学スキル	13
Q12: キャリアパス	14
Q13: フレキシブルに働く	15
Q14: 短期の雇用	16
Q15: スパ vs. ヘルスケア	17
Q16: 観光客向け	18
Q17: 労働条件	19
Q18: 就業しやすいか	20
回答者について	21
国/地域別 回答者	23
他の調査について	24

概要

アジア・パシフィック スパ&ウェルネス連盟(APSWC)は2017年6月9日から7月6日にかけて、教育機関とソーシャルメディア(Facebook, WhatsApp, LINE)を活用し、オンライン調査を行いました。この調査結果は2018年3月15日、16日にシンガポールにて行われる会議に向けての準備に使用されます。

アジア太平洋地域には世界中のスパの約1/3が集結している。この数字は、同地域に約32,400以上のスパがあり、更に増えているという事実に基づいています。

2014年にグローバル スパ&ウェルネス エコノミーモニターが、このように述べています。

「スパ業界が2007年から2013年までの過去5年間と同じ速度で成長していくのであれば、5年後の2018年までに、更に50万人のセラピストと 8万人の実力のあるスパマネージャーもしくはディレクターが世界的に必要なだろう。」

回答は選択式でしたが、スパ&ウェルネス業界が求職者にどのように認識されているのかがわかる調査となりました。今後の雇用面での目標達成の為、将来の見込み雇用者に対して同業界が如何にして魅力的なものとなるのかを考えていく為に行われた調査です。

評価やその他の結果の全体的な信憑性は、回答者の数に比例します。より多くの回答が集まるほど、信憑性も増していきます。

この調査は127件の回答(主にアジア地域より)をまとめたものであり、我々の業界がどのように認識されているのか、更には、何故急成長している業界が被雇用者を留めておくのが難しいのか、議論を呼ぶものになると確信しています。

Andrew Jacka アンドリュー・ジャッカ

Chairman

Asia Pacific Spa & Wellness Coalition

APSWC



アジア・パシフィック スパ&ウェルネス連盟(APSWC)は、2007年6月にシンガポールで正式な登録を行った非営利団体です。スパ&ウェルネス業界のプロフェッショナルが地域の各国から2006年の5月にシンガポールに集まり、非公式な会議でスパ業界を皆さんのベネフィットとしてプロモーションすると決め、発展の為の戦略を綿密に練りました。元来は、各国のスパ協会の橋渡しとして立ち上がった団体でしたが、地域を象徴するものへと成長し、今や自国にスパ協会を持たない国を取り込んで、スパ経営者や、スパ&ウェルネス業界に興味のある人、会社、組織にとって、万能なメンバーシップを提供しています。近年は香港、インドネシア、マレーシア、ネパール、フィリピン諸島、シンガポール、タイからのメンバーを迎えています。

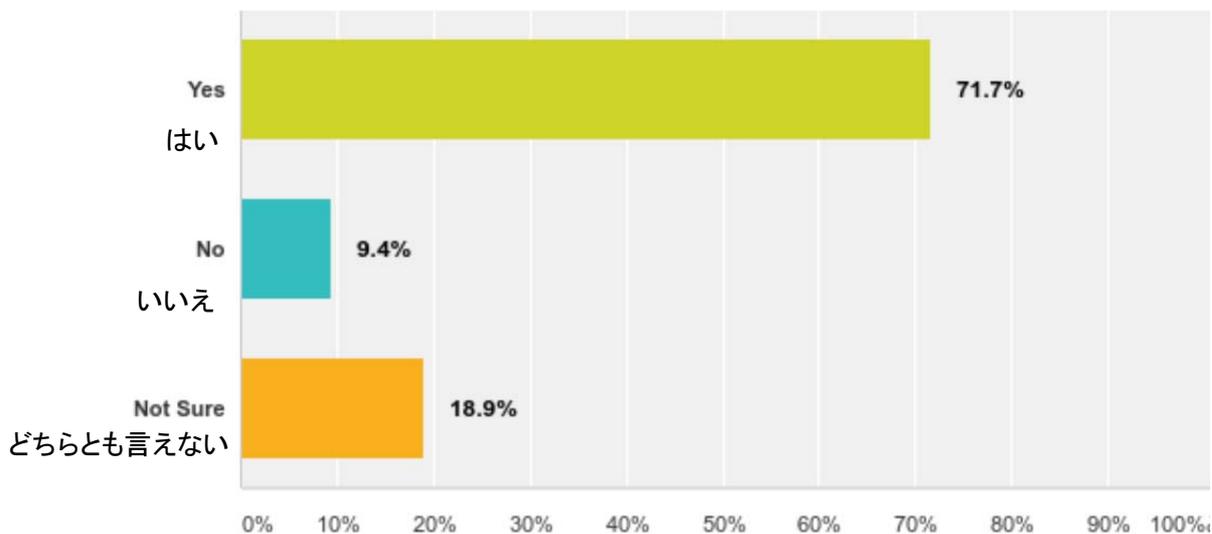
APSWCは、年に一度の会議、勉強会、そしてオンラインセミナーを含む、教育イベント/リーダーシップイベントに注力をしています。

APSWCについて更に詳しくはこちら www.apswc.org

お問い合わせはこちら: info@apswc.org

Q1: 魅力を感じますか？

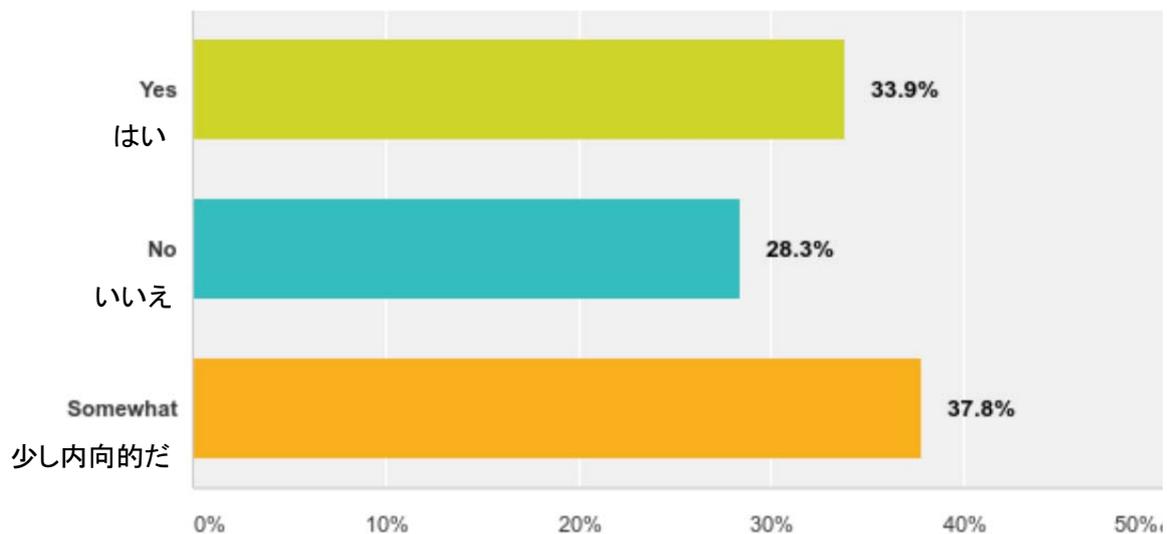
スパ&ウェルネスの業界で働きたいと考えますか??



127件の回答のうち、70%以上が「スパ&ウェルネス業界で働きたいと考える」、20%が「どちらとも言えない」を選択している。ターゲット層は求職者ですが、不決断な回答が多いことが目に見えてわかる。求職者は将来の為により良い選択がしたいと考えている為、この回答は予想通りである。また、「スパ&ウェルネス業界に興味がない」と述べているのは全体の10%以下である。

Q2: 内向的ですか？

あなたは自分が「内向的だ」と思いますか??

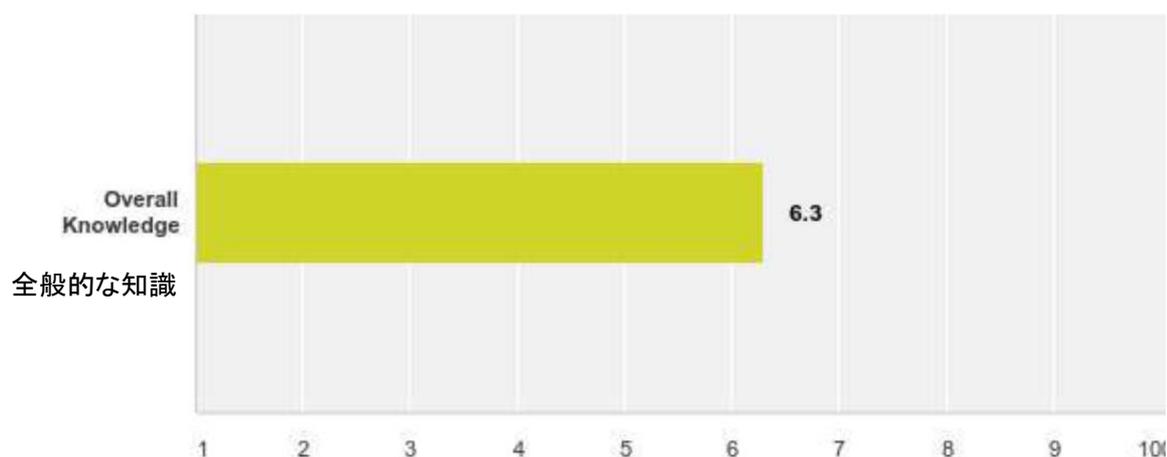


一見変な質問に思えるかもしれないが、内向的なスパセラピストが多いという説があり、我々はセラピストが彼ら自身についてどのように理解しているかを確認するべきだと考えたのである。70%が「内向的」あるいは「少し内向的」と回答している結果を見ると、説が正しいということがわかる。この調査は小規模かつ断片的なものであり、化学的根拠がないという事を念頭に置かなければならないが、この業界の人間の多くが、実際に内向的なのである。

しかし、化学的根拠はないものの、暗くて静かな場所で、初対面のほぼ裸のお客様を相手に仕事をするスパセラピストにとって、内向的であるということは、上手く働いているのだろう。もっと積極的な性格の人々には、よりアクティブな交流が必要な仕事が合っているということは明白である。

Q3: 知識

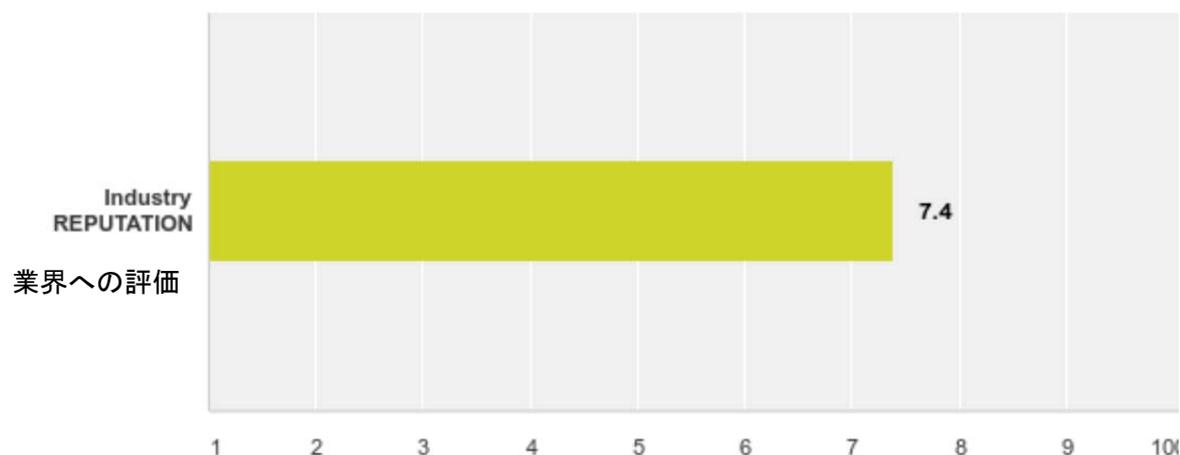
1から10の数字で、あなたのスパ&ウェルネス業界全般の知識を評してください



この質問では、数字の最大が10で、平均値が6.3という結果が出た。興味深いことに、約1/3の回答者が8より高い数字を選び、「業界についてほとんど/全く知識がない」と自己評価したのは全体のたったの10%の回答者であった。

Q4: 評価 / 評判

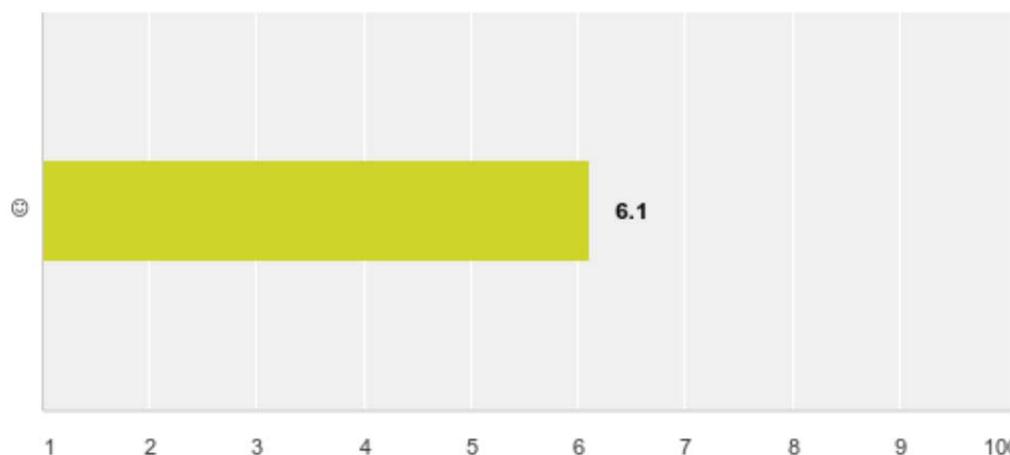
1から10の数字で、スパ&ウェルネス業界を評価してください



平均7.4という数字は、極めて前向きにスパ&ウェルネス業界が評価されていると言えよう。中傷や悪印象も僅かにあると思うが、基準プロモーションや、プロのスパ&ウェルネスオペレーターによる進行中のマーケティングが、過去何年にも渡り、新規求職者への同業界の評価の向上に貢献していることは顕著である。スパ&ウェルネス業界が誕生した初期にあった、(スパ&ウェルネスという言葉に対しての?) 否定的な意味合いは、この回答結果を見ると、一掃されたようである。

Q5: 資格

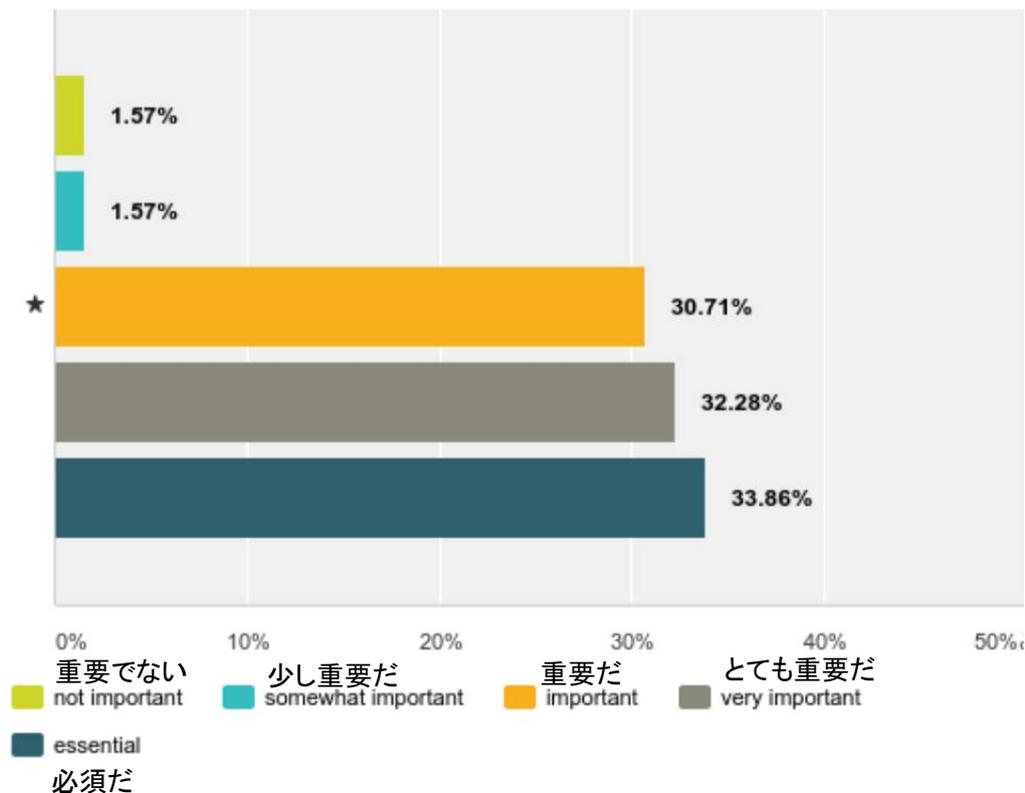
1から10の数字で、スパ&ウェルネス業界の資格についてのあなたの知識を評価してください



業界の基準に関わらず、業界の教育機関は資格について、恐らくまだ改善の余地があるだろう。資格への知識の評価平均6という数字は合格最低ラインのように見られる。また、資格の事前エントリーが出来ること、資格を獲得するとそれ相応の見返りがあるという認識を広げていかなくてはならないという事実が浮き彫りになっている。

Q6: 消費者知覚

1から10の数字で、スパ&ウェルネス業界の資格がどれくらい重要なものなのか、消費者として評してください。.



97%の回答者が、スパ&ウェルネス業界の資格を重要なものとして認識している。

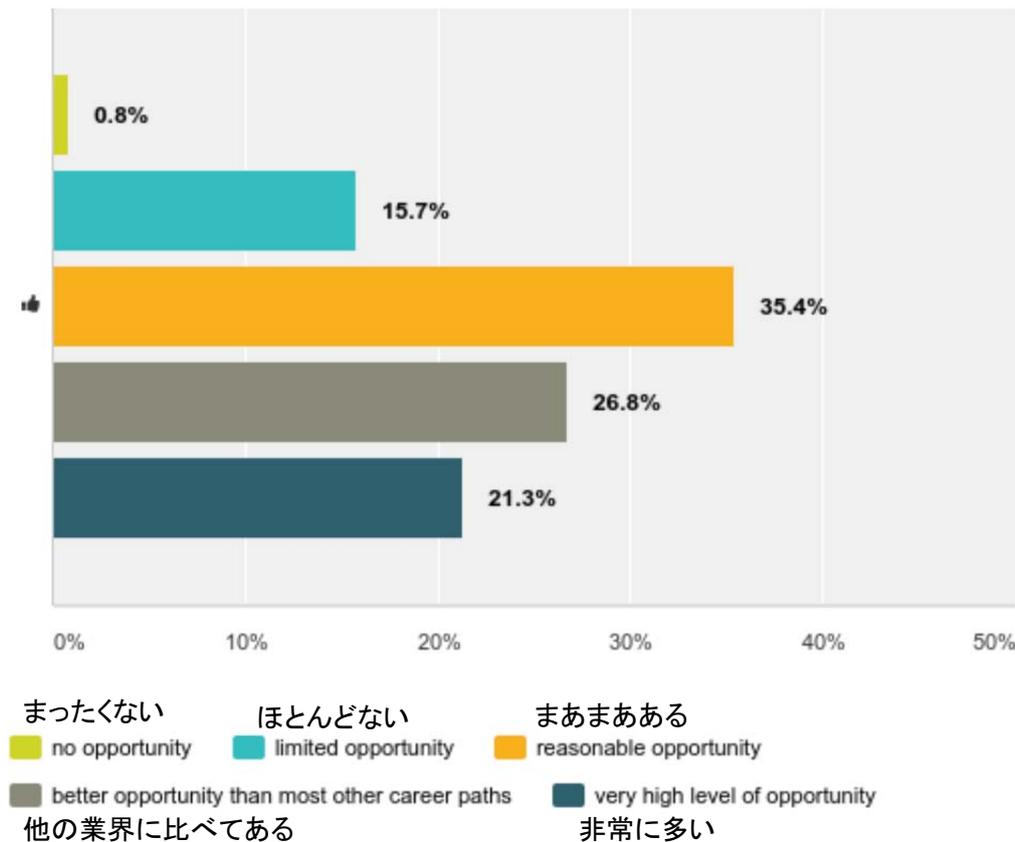
重要(30.7%)、とても重要 (32.2%)、必須 (33.8%)

一方、わずかだが3%の回答者は、資格に重きを置いていないようだ。

この結果を見ると、教育機関は資格取得に魅力や価値があるという事が求職者に明らかにわかる様に、まだ何か改善の余地がありそうだ。

Q7: 海外出張

スパ&ウェルネス業界へ就職したら、海外出張の機会があるかどうか、あなたはどのように認識していますか？

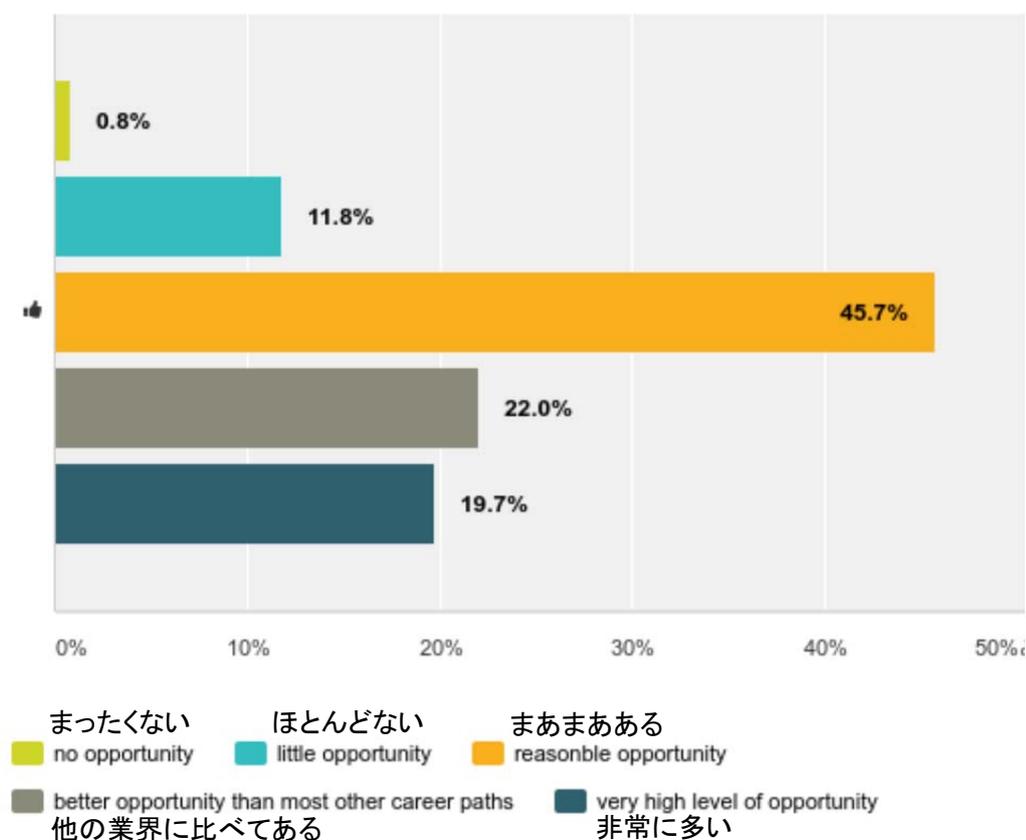


約50%の回答者が、海外出張の機会が非常に多い(21.3%)、あるいは他の業界よりも多い(26.8%)と認識している。回答者は主にアジア人であり(p.23参照)、アジア諸国では多数の海外就業者や、SPAで海外就業者を雇用している、という事を考えると、この結果は概ね予想通りだと言えよう。もし、既に同業界で就業している人を対象に同じ質問をしたならば、もう少し「海外で働く機会がある」という回答は増えると思うが。

グローバルメディアの情報を信じるのであれば、未だに人身売買が蔓延り、売春が増えている。世界的な人材派遣会社や、予算内で世界を旅したい雇用者にとって、業界の発展は非常に魅力的なものとなるだろう。

Q8: 国際雇用

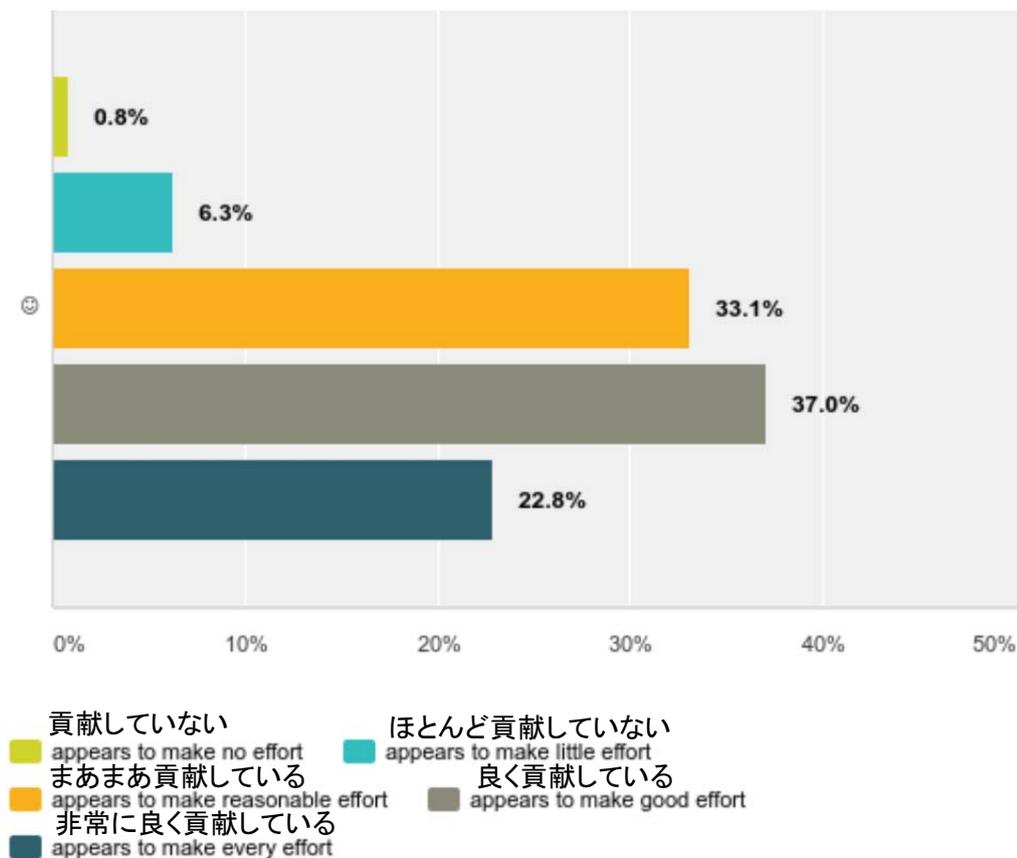
スパ&ウェルネス業界へ就職したら、海外への配属はどのようなものであると認識していますか？



スパ&ウェルネス業界全般は、海外での就職を希望している人にとって、チャンスが多いと認識されている。2人に1人は「まあまあある」と回答しており、全体の85%は、同業界は海外で働く機会が非常に多いと認識している。

Q9: 世界水準

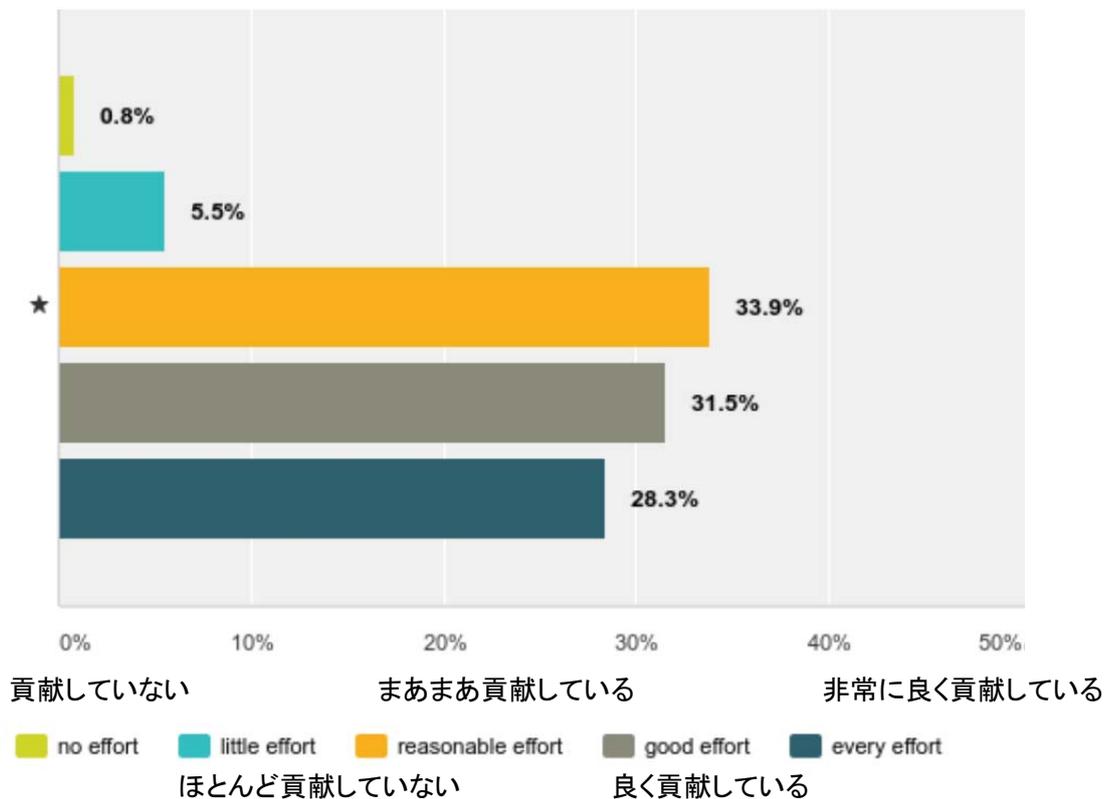
あなたはスパ& ウェルネス業界が、世界水準の向上にどの程度貢献していると考えますか？



約60%の求職者が、同業界は「良く貢献している」(37%) あるいは「非常に良く貢献している」(22.8%) と評価している。しかし、「まあまあ貢献している」というレベルでは、国際水準の向上に貢献している業界とは言えないだろう。この分野においては、まだまだ努力改善の余地がある。

Q10: 文化と伝統

スパ&ウェルネス業界は、スパに基づく文化や伝統の保護にどの程度貢献できていると考えますか？



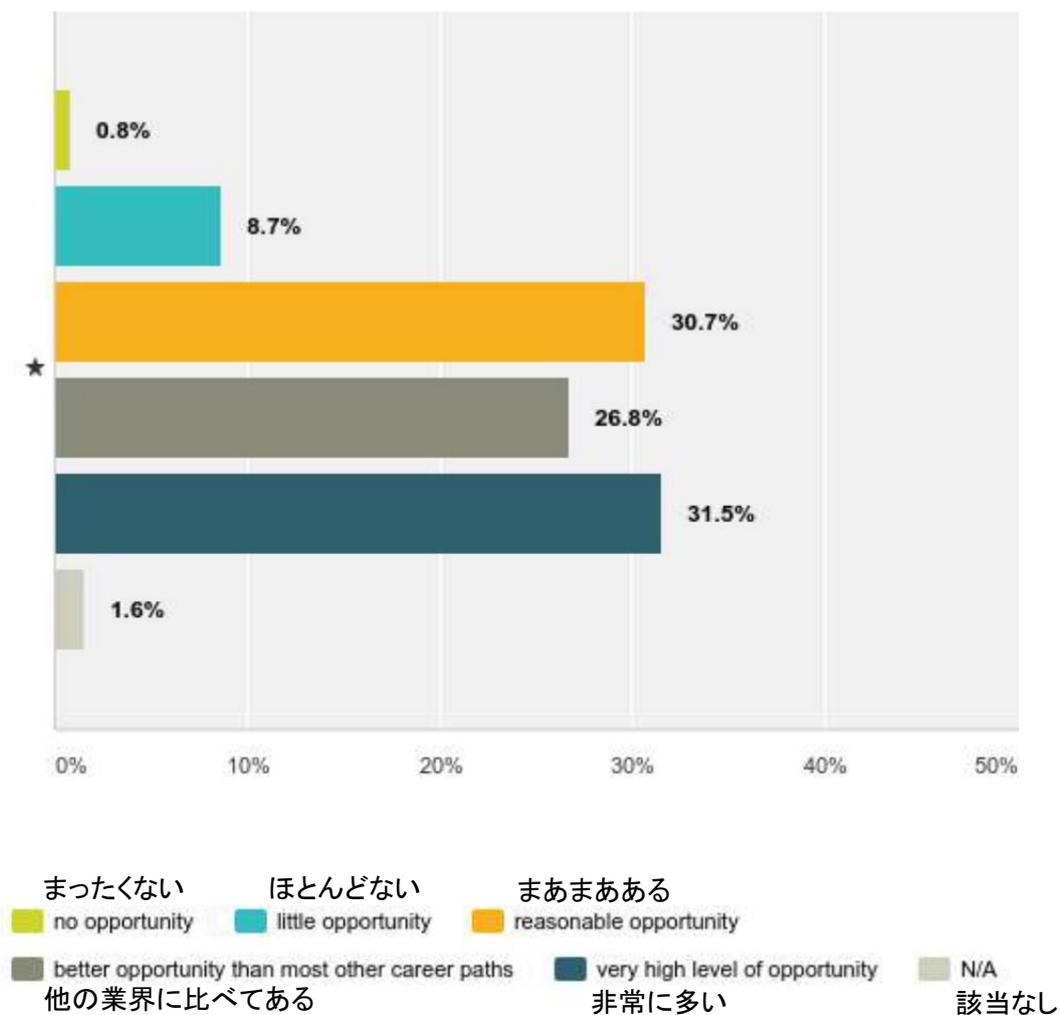
60%は我々が文化や伝統の保護に「良く貢献している」(31.5%)、あるいは「非常に良く貢献している」(28.3%)と回答しているものの、業界として、我々には先祖の文化や伝統を侵略されてきた長い歴史がある。

この分野において、まだまだ努力が必要だが、多数の求職者が、同業界が現在に至るまでに文化や伝統の保護をしてきている、ということを知っているという事は、非常に良いニュースである。

この点においては、認識と現実にズレがあるだろう。

Q11: 語学レベル

新しい言語を学ぶなど、語学力を高める機会がありますか？



求職者の55%は同業界では他の言語を学ぶ機会が多いと考えているようだ。

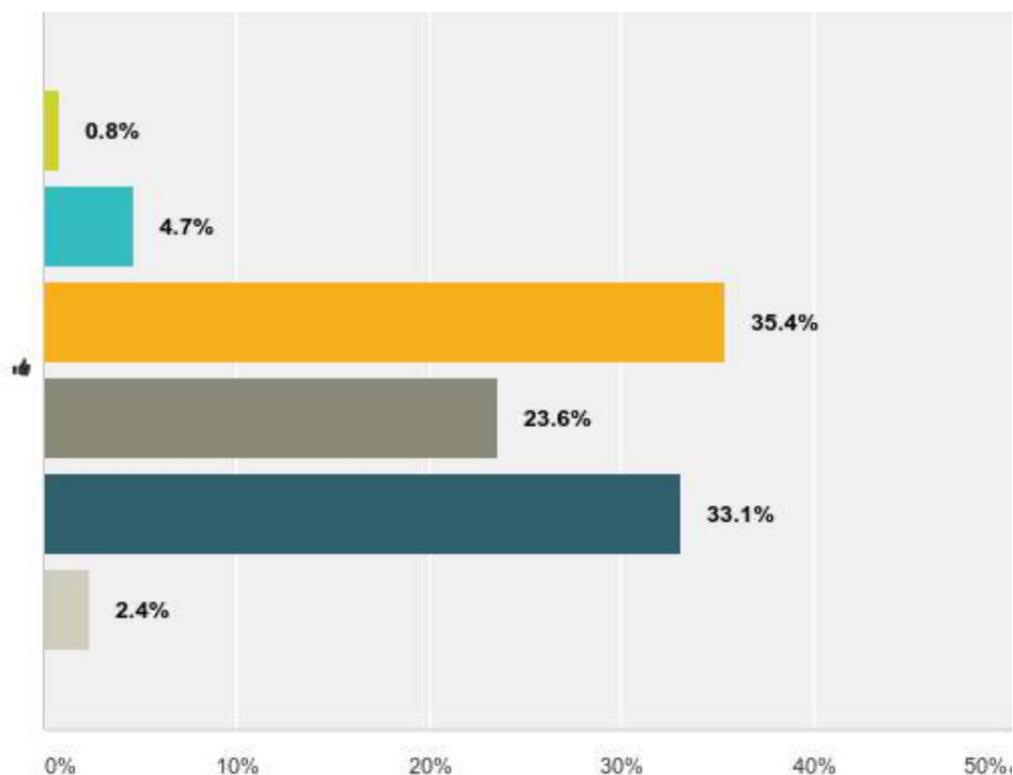
「他の業界に比べてある(26.8%)」、「非常に多い(31.5%)」

どれだけの教育機関が初歩的な語学教育を提供しているだろうか？

ここにももう一つ、新たな認識と現実のズレを発見した。

Q12: キャリアパス

スパ&ウェルネス業界はキャリアパスを提供出来ると感じますか？



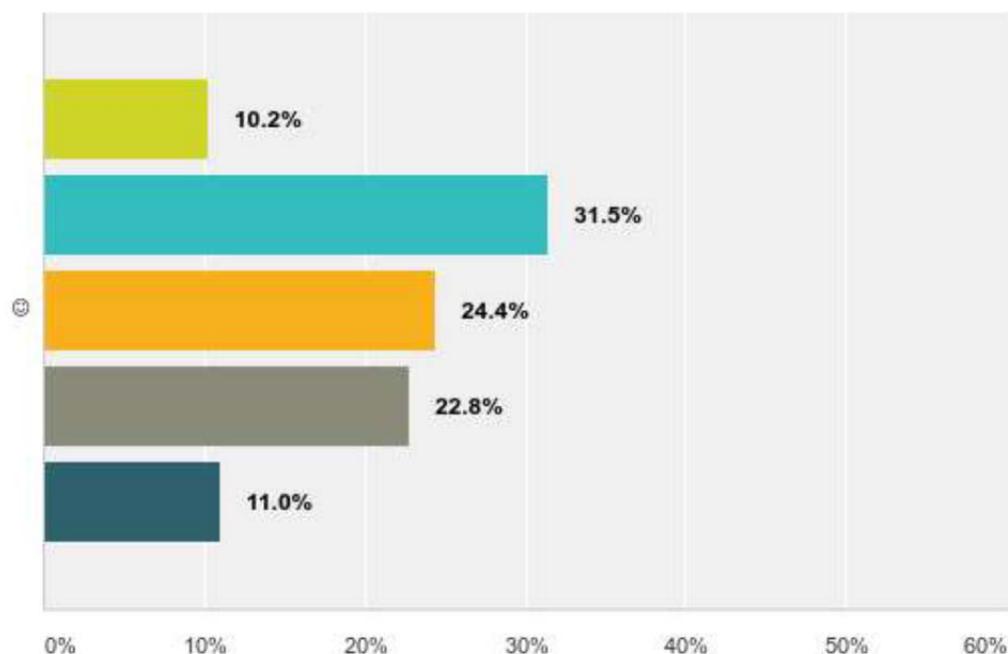
- There is no opportunity to grow professionally 専門的に成長できる機会はないと思う
- There is limited opportunity to grow professionally 専門的に成長できる機会ほとんどないと思う
- There is reasonable opportunity to grow professionally 専門的に成長できる機会はまあまああると思う
- The industry offers a better career path than most other industries 他の業界に比べてより良いキャリアパスがあると思う
- There is a excellent career path available for those that are motivated to pursue it やる気のある人に対して、非常に良いキャリアパスがあると思う
- N/A 該当なし

50%以上は、同業界は「他の業界に比べてより良いキャリアパスがある」(23.6%)あるいは、「やる気のある人に対して非常に良いキャリアパスがある」(33.1%)と考えている。

恐らく、輝かしいキャリアを築けるという求職者の期待と、人材運用に限度があるという業界の現実がぶつかるポイントであり、雇用者のイメージとの違いに苦戦している業界があるのはこの為だろう。

Q13: フレキシブルに働く

スパ&ウェルネス業界は労働時間に対して柔軟性があると思いますか？



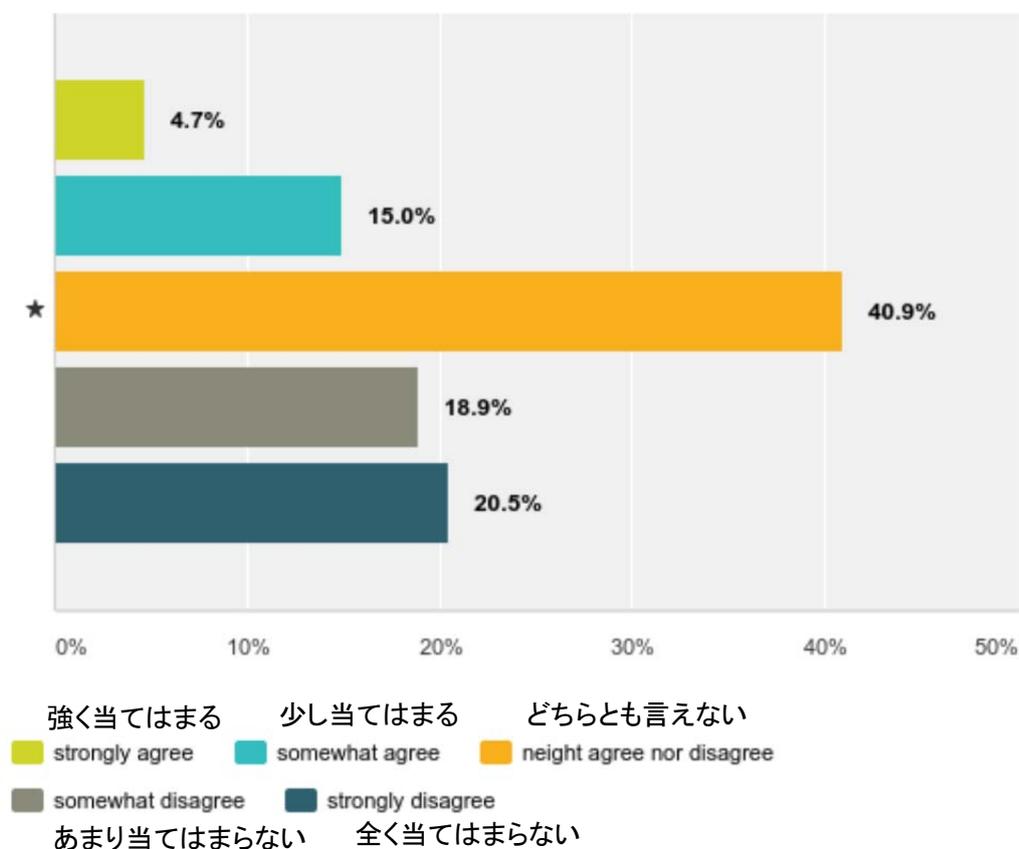
- working hours are fixed with no flexibility 勤務時間は固定で、融通は利かない
- there is limited flexibility (i.e. I can request different day off) 少なから融通が利く(希望休が出せる、など)
- there is reasonable flexibility (i.e. I can request different start / finish time) まあまあ融通が利く(始業/終業時間がフレックス)
- there is good flexibility (i.e. I can request reasonable changes to the days / times I... 融通が良く効く
- you can just about work when I want as long as it not impact on the business (就業日、時間などの変更ができる)
働きたい時に働けば良く、それで職場に影響はない

3人に1人は休日変更など、4人に1人は就業開始/終了時間など、5人に1人は労働時間における融通が利くと考えており、10人に1人は働き方においてフレキシブルな対応をしてもらえると考えているようだ。

業界内で、大多数のメンバーが生産性の低いことを考えると、フレキシビリティに対するこの認識は予想がつく。しかし、同様に、労働時間の面で(特に多忙なスパでは)ほとんど融通が利かないというケースでの、離職に繋がってしまう理由でもある。

Q14: 短期の雇用

スパ&ウェルネス業界は、誇張しているが実際は一時的なもので、短期間の雇用になると考えますか？

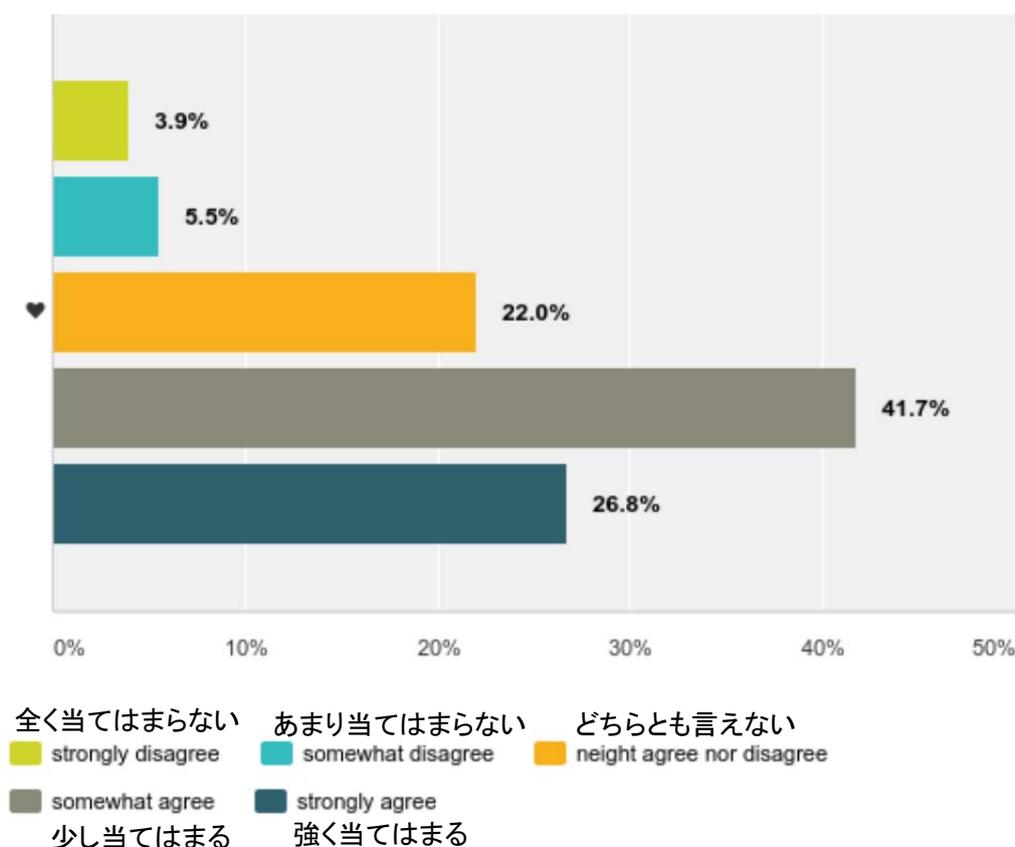


約20%が、同業界が一時的なもので、雇用も長期には及ばないだろうと考えている。(特にアジアでは)伝統的な医学をベースに成り立っている業界なだけに、この結果は驚きである。

「わからない」という回答を含めると、60%もの回答者が、スパ&ウェルネス業界が長期的な維持力に欠けると認識しているのである。これを忠告として、この先の数年で必要とされる人員を惹きつけ取り込む為、対処していかなければならない。

Q15: スパ vs ヘルスケア

スパ&ウェルネス業界は、ヘルスケア業界と密接に関連していると考えますか？

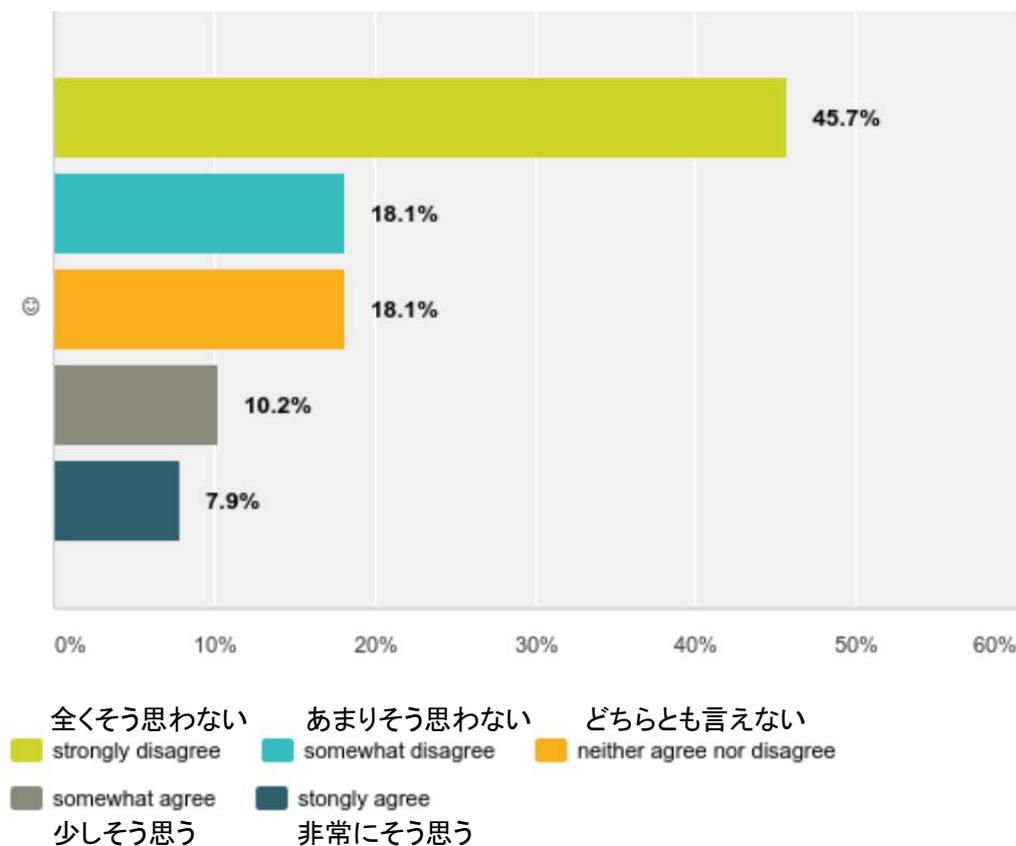


30%が「よくわからない」あるいは「スパ&ウェルネス業界は、ヘルスケア業界は異なる」と回答している。業界の生存能力についての教育不足が明らかになっている。また、我々は業界のプロモーションとして”Relaxing”と”Pampering”という言葉非常に良く使うが、その言葉がヘルスケア業界とは同列に見られないのかもしれない。真剣な被雇用者たちを惹きつけるため、ひょっとしたら、業界を売り出す方法を変えていく時期なのではないだろうか。

Q16: 観光客向け？

「スパ& ウェルネス業界は観光客向けの産業だ」

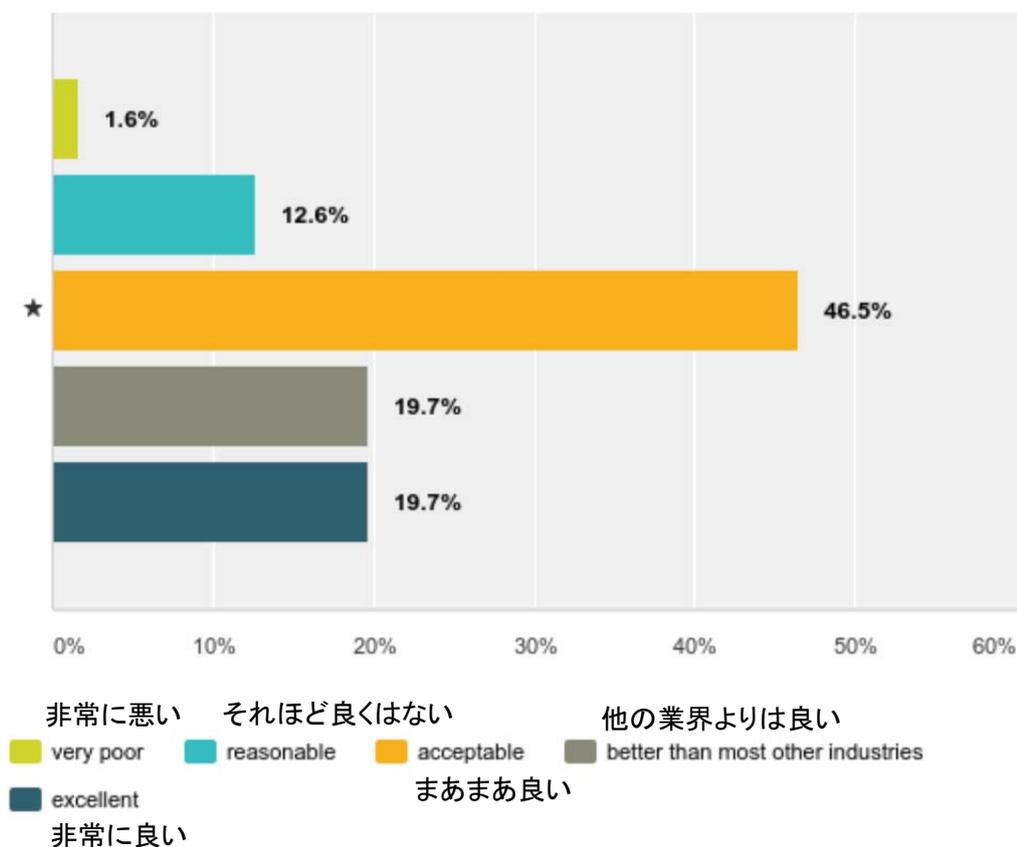
上記の文章に同意しますか？



結果は、65%の回答者がスパ&ウェルネス産業を観光客向けのものだと認識していないということが明白である。ほとんどの回答者は、スパ&ウェルネスのキャンペーンなどで観光客を誘引しているアジア出身者であるにも関わらず、彼らがスパへ行くことを贅沢としてだけではなく、より広く受け入れられる主流のアクティビティとして見通しているという事は、非常に良い有り難い傾向である。

Q17: 労働条件

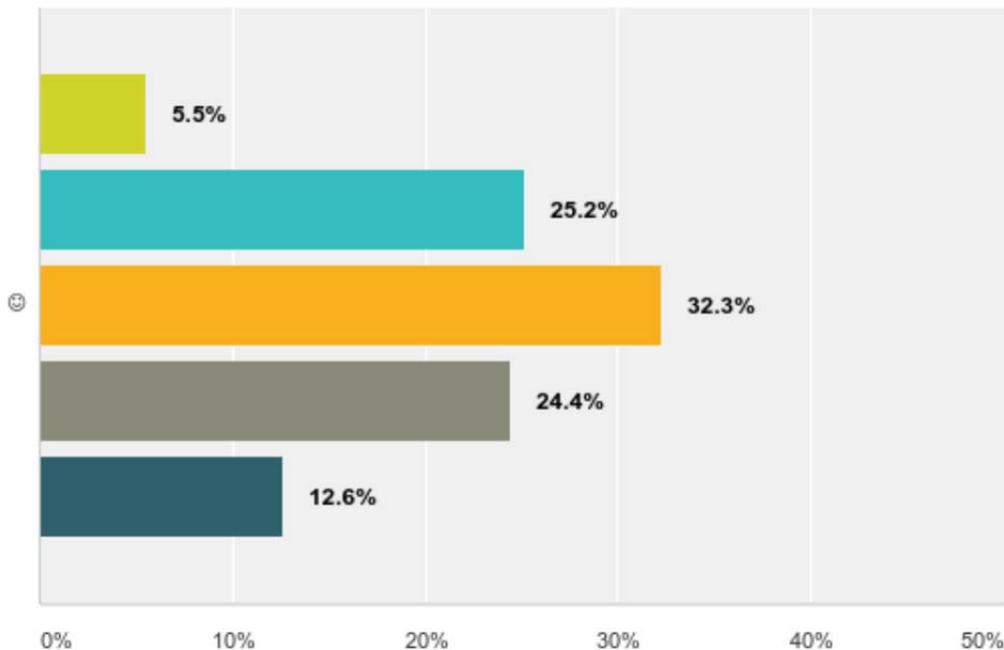
スパ&ウェルネス業界での労働条件はどのようなものだと考えますか？



約40%が、同業界における労働条件が「他よりも良い」(19.7%)あるいは「非常に良い」(19.7%)と回答している。つまり、残りの60%は「まあまあ」もしくは「標準以下」と感じているということである。これを機に、スタッフの利用するバックヤード設備の改善をしてはどうだろうか。この回答結果が、スタッフ離職の理由のひとつを示しているのかもしれない。

Q18: 就業しやすいか

スパ&ウェルネス業界に就職することは、どの程度難しいと考えますか？

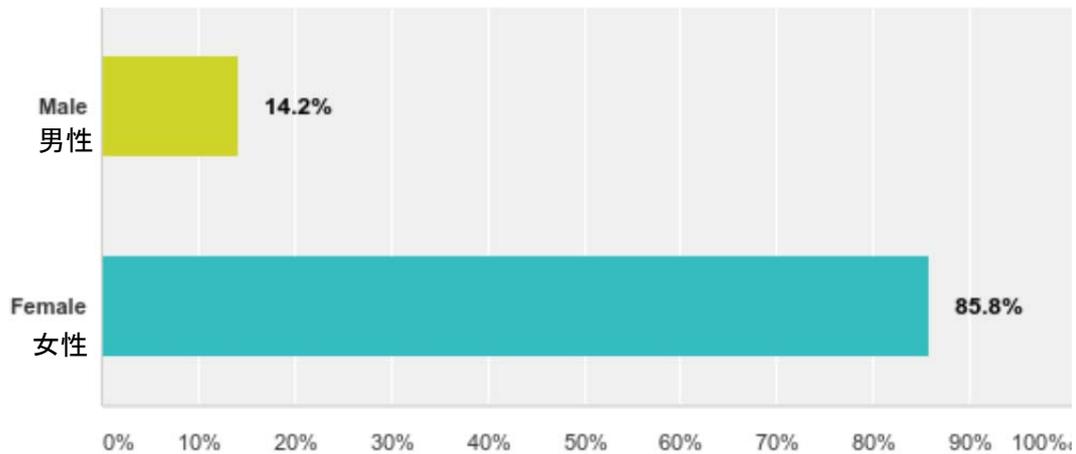


- 様々な専門的/技術的トレーニングや資格が必要な為、非常に難しい
 very difficult as lots of specialist/technical training/certification is required...
- 事前応募の資格が必要な為、やや難しい
 somewhat difficult as some pre entry certification is required
- 他の業界と変わらない
 about on par with most other industries
- 仕事を通して学べる為、簡単
 easy for most people as can learn on the job
- very easy - as anyone regardless of skill or education level can work in this industry
 スキルや教育レベルに関係なく誰でも就業可能な為、非常に簡単

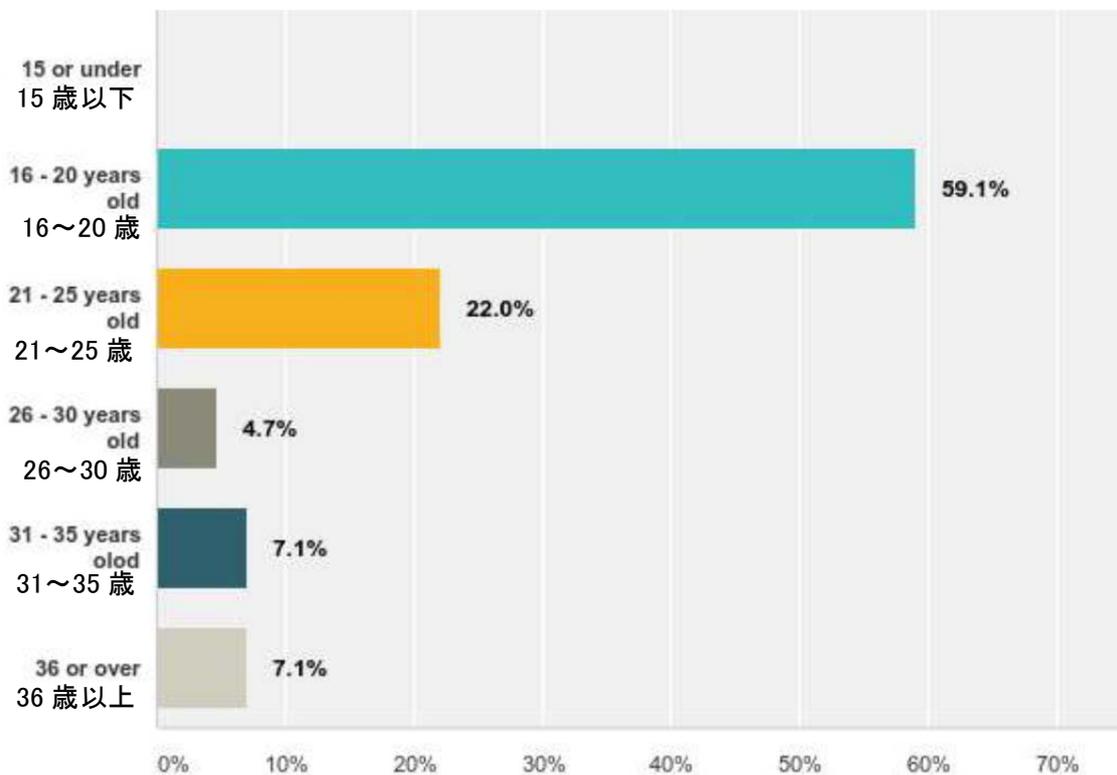
40%が「簡単」(24.4%)あるいは「非常に簡単」と回答しており、たったの30%が「やや難しい」(25.2%)あるいは「非常に難しい」と回答している。この質問の重要性や、対処法などに関する情報は全く与えられていないものの、回答者は概ね均一に「簡単」、「他の業界と変わらない」、「難しい」の3パターンに分かれた。

回答者について

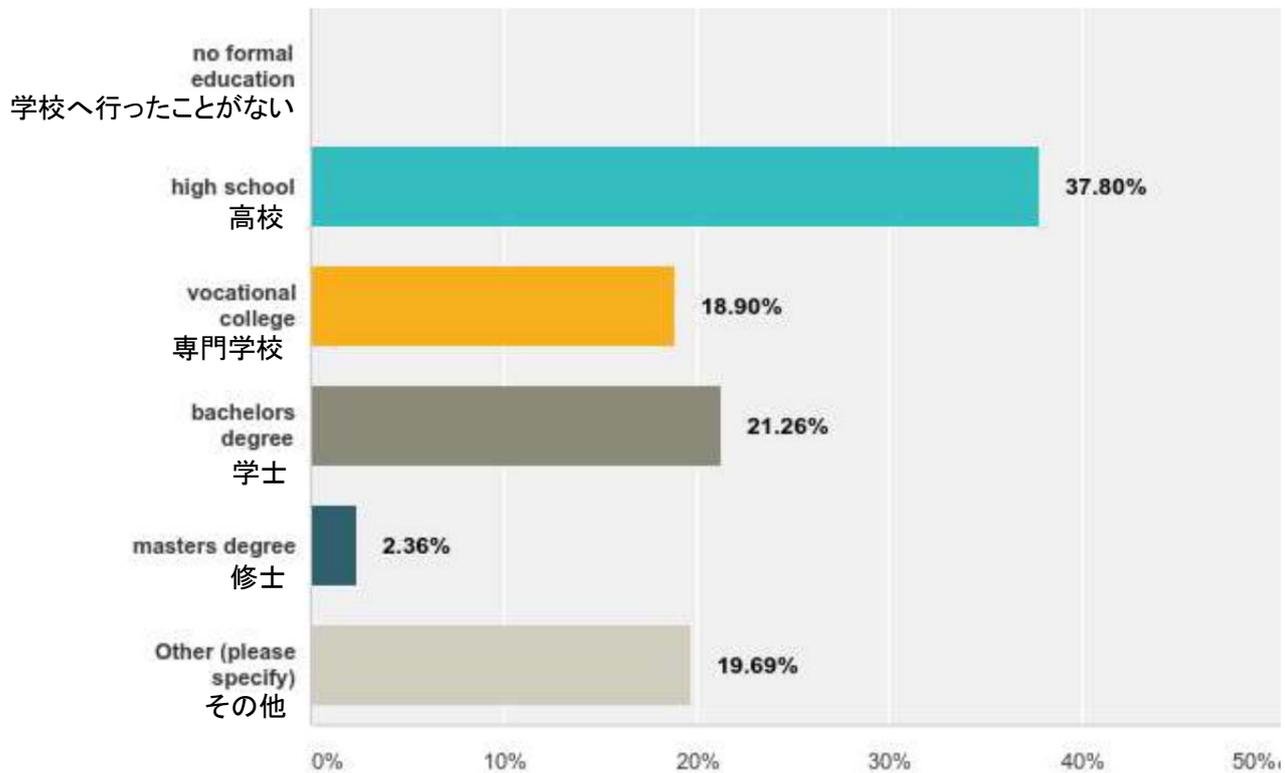
Sex/性別



Age/年齢層

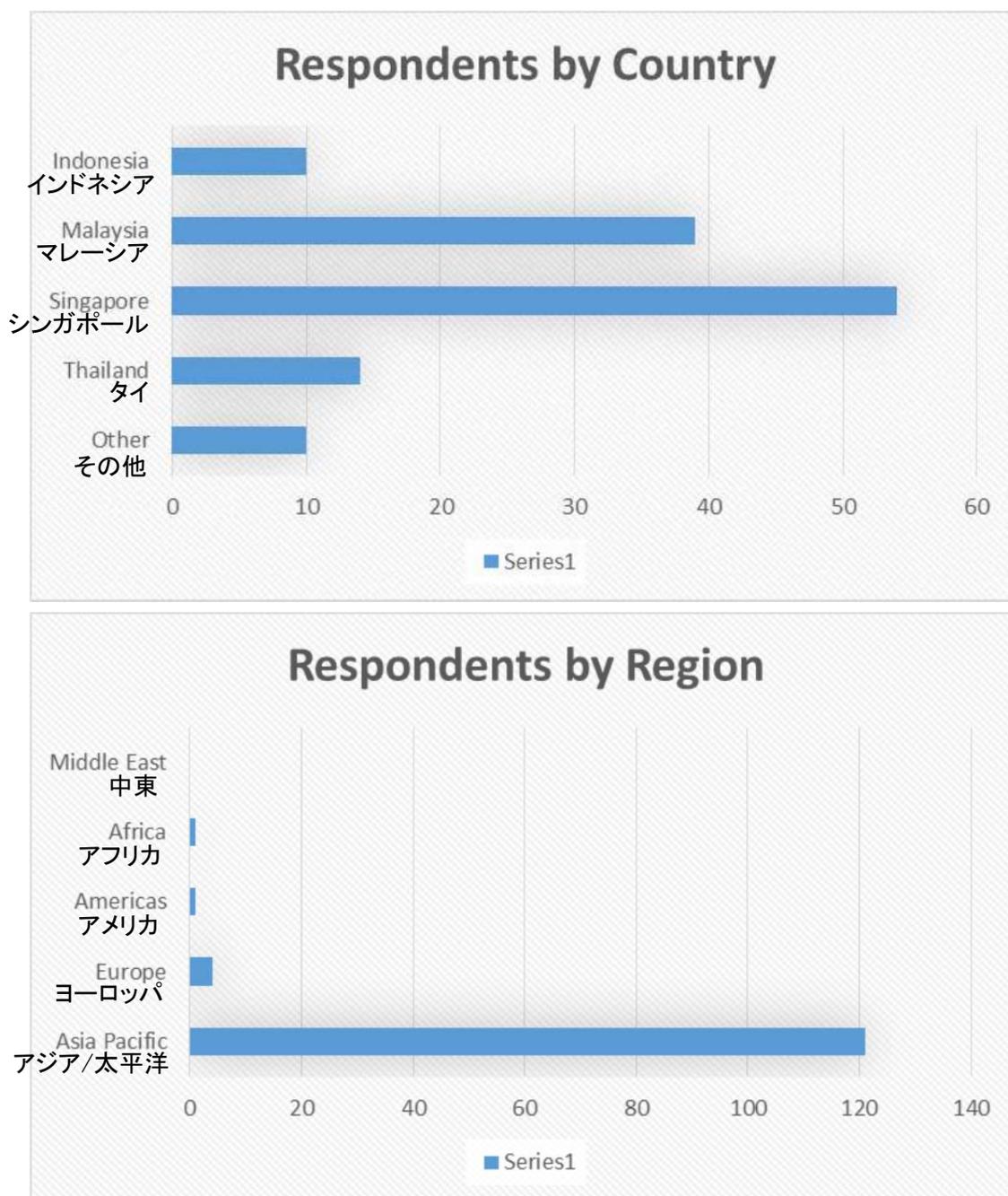


Education/教育レベル



回答者は平均すると、20歳以下の高校生/専門学生の女性であることがわかる。
この調査におけるターゲット層は正しかったと言えよう。

国/地域別 回答者



回答者のほとんどがアジア/太平洋地域とシンガポール出身の求職者だ。
この調査は英語のみで行われていない為、回答者の英語スキルにより、
若干回答に差異がある可能性がある。

他の調査について

APSWCはスパ&ウェルネス業界のアジア・太平洋地域の組織として、時折、業界に関する様々なトピックで調査を行っております。

他の調査の結果をご希望の方は、info@apswc.org宛てに、件名「APSWC Mailing List」にて下記情報とともにメールをお願い致します。

Name: Mr/Ms (first name) (FAMILY NAME)

Company*:

Preferred Email:

回答者の詳細は、調査の前書きの規定に示したように、責任を持って管理し、別の用途で使用することはありません。調査結果は、回答者のどなたにも無料で公開しております。この調査の要約は、回答者以外にも公開される可能性があります。

APSWCは、回答者の許可なく調査結果や内容を販売する権利を持ちます。

調査のテーマや、調査においてアンケートの配布にご助力頂ける場合は、info@apswc.org to discuss までご連絡下さい。

スポンサーについても、募集しております。

詳細はchairman@apswc.org までお問い合わせ下さい。